



The Weekly Report of

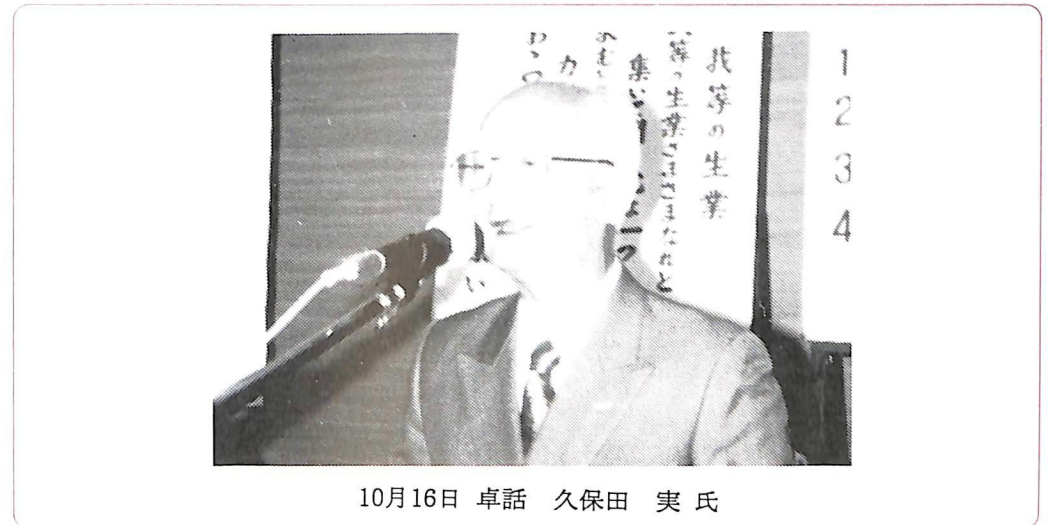
Hakodate North R.C.

# 函館北ロータリークラブ会報

ルイス・ビセンテ・ジアイ 1996~97年度 国際ロータリー会長テーマ

築け未来を—行動力と先見の眼で。

Build the future  
with action and vision



10月16日 卓話 久保田 実氏

《第1606回例会》 第16号 10月23日(水)

本日のプログラム

「我が町を語る」

八雲町総務課 伊藤 修氏

★会 長 西尾昌一 ★幹 事 佐々木公和

### ◎ 出席報告

会 員 数	69名	出 席 率	函 館 北	9月25日	89.39%
出 席 席	36名		函 館 東	9月24日	90.82%
欠 席 席	33名		函 館	9月19日	92.24%
他クラブ出席	23名		函館五稜郭	9月20日	100.00%
出 席 合 計	59名		函 館 亀 田	9月23日	祝日休会
除 外 者	3名				

次回・10月23日

「会 員 卓 話」

プログラム

小林 裕幸 会員

1996～1997 &lt;第1605回例会&gt; 第 15 号

10月16日の記録

- ◎司 会 西尾 昌一 会長 ◎斉 唱 我等の生業  
 ◎ゲ ス ト 久保田 実 氏 (郷土史研究家)  
 ◎ピジター 函館R.C. 澄 信一 君・小泉康祐君・森川順治君、函館東R.C.  
 川田順之君・鎌田 剛 君・小安土達郎君・佐川啓一君・日下  
 部一博君・新谷 正 君、函館五稜郭R.C. 田嶋英人君・月永勝  
 芳君・大田英雄君、函館亀田R.C. 小島悦郎君

## ◎会長報告 西尾 昌一 会長

- 函館視力障害センターの第32回の文化祭のご案内がきています。10月20  
 日 9時より15時30分まで御希望の方は参加ください。  
 ○米山記念奨学会委員会から米山の「ミニガイド」がきておりますので回  
 覧致しますので御覧下さい。

## ◎委員会報告

- ・職業奉仕委員会 新 博夫 委員長  
 健康診断を行います。

日 時 10月30日(水) AM 11:00～

内容は、採血、採尿による各種検査、血圧

(出来るだけ朝食抜きで参加して下さい)

内診は、斉藤内科(万代町)において10月27日AM 9:00分受付

(胃バリウム・胸部レントゲン・心電図を行います)

## ◎ローターアクト委員会 阿部 義則 委員長

毎年海外へローターアクトの青年が訪問されていますが、今回日程が決ま

りました。ホーム国は台湾高雄市を訪問させていただきます。訪問日程  
 は、平成9年1月10日から1月15日まで、費用については148,000円です。  
 定員は30名ですので一般のロータリーアンの皆様の参加を強く希望して  
 おります。

## ◎幹事報告 佐々木公和 幹事

- 千葉港R.C. から会報と活動計画書が届きました。回覧します。  
 ○他クラブ情報 10月28日(月)函館亀田R.C. 夜間例会に変更になります。

## ◎親睦活動委員会 谷口 登美男 副委員長

## ニコニコBOX投入報告

森(秀) 会員……久保田先生を歓迎して。

佐々木(公)幹事…BOXに協力。

鈴木(伸)会員…… ”

西尾 会長…… ”

橋場 会員…… ”

阿相 会員……欠席がちのおわび。

藪下 会員……BOXに協力。

島本 会員……誕生日ですので。

山本 会員……結婚祝いありがとう。

松橋 会員……BOXに協力。

松見 会員…… ”

## ◎卓話 「啄木のこと」 久保田 実 氏

動機 史跡案内の中、まれに啄木についての質問や現地を知りたいと云う  
 声がある。史跡を訪れる態度で啄木を追ってみたい。

範田 明治40年5月5日に啄木が自分から函館に来て、苜蓿社の主筆とな

り、商業会議所臨時雇用、弥生小学校代用教員、函館日々新聞社遊軍記者を経て、8月25日の大火に遭い、職場も紅苜蓿8号の原稿も焼失。災害地函館を見切り、9月13日札幌へ去った132日間に留めた。啄木21才、結婚2年目。

拠点 啄木日記（函館の生活）約28日分と歌集「一握の砂」

- \*日記 日記の形式→5/11. 8/27~9/13の18日分
- 思い出形式→5/5~8/18の約10日分（9/6記入）
- ・苜蓿社の仲間のこと            ・会合のこと（議論、酒宴）
- ・勤務先のこと                 ・家族のこと
- ・仲間や勤務先の人物批評

\*歌集 明治43年出版、41年の上京後に執筆、5部構成で551首ある。

1部「我を愛する歌」→冒頭の10首が砂、砂山、浜辺の歌

4部「忘れがたき人々」

(一) 111首の内、27首が「函館」でのこと

- ・自分自身のこと   ・苜蓿社の仲間のこと   ・街のこと
- ・酒のこと   ・浜辺のこと           ※語句重複あり

(二) 22首の全てが橘智恵子のこと（弥生小同僚18才）

足跡

- ①のまとまり→啄木一家や苜蓿社の仲間たち
  - ②のまとまり→啄木の勤務先
  - ③のまとまり→歌策に訪れたと思われる所
  - ④のまとまり→啄木亡き後の妻子のこと
  - ⑤のまとまり→啄木を偲ぶもの
- 地域的には3区分になる。
- ①青柳町周辺
  - ②弥生町周辺
  - ③海岸線一帯

◎苜蓿社の仲間（スライド使用）

- 松岡落堂（政之助）24才 控訴院雇 青柳町45 苜蓿社住い
- 吉村白村（章三） 26才 東川小教員 青柳町25
- 岩崎白鯨（正） 21才 郵便局局員 青柳町36

- 大島流人（経男） 29才 女学院教員 元町71 前主筆
- 宮崎郁雨（大四郎）22才 味噌製造業 旭町238 節子妹の夫

※苜蓿社（啄木も住い）の近隣に位置していた。

◎石川啄木居宅跡 21才 青柳町ラの4号7/7~

商業会議所雇 弥生小教員 新聞記者 ムの4号7/14~

7月7日から妻子節子、娘京子と生活、家賃3円90銭。8月4日に母、9日に妹光子が来る。6畳2間に5人で生活、苜蓿社仲間がよく集まり議論酒宴をする。（南部煎餅と夏密柑）

※この辺は2度、火災に遭い、様相変貌（大正3、昭和9年）

◎町会所跡（後日 妻節子の実家、掘合宅跡）

町会所に同居していた商業会議所の臨時雇として、5月11日から30日まで勤務した。日給60銭、明治40年の大火後の大正元年、節子の実家掘合氏が叔父村上氏から離れ、家屋を新築した。

◎函館税務署跡

商業会議所での啄木の仕事は、有権者名簿（会議所議員選出）作成のための納税額調査であった。苜蓿社と会議所と税務署通いの毎日であった。税務署は現潮見中学校の場所にあった。

◎橘智恵子下宿跡

吉村白村の世話で、6月11日から弥生尋常小学校の代用教員となる。同校は明治15年開校で、当時児童数約千人余、職員15名。場所は現校舎より一段上にあった。月給12円（浪民小8円）浪民の時の「日本一の代用教員」と云う意欲もなく、7月半ばから無断欠勤をする。しかし、同僚の橘智恵子に一方的思慕を募らせ、22首の歌となった。智恵子18才（札幌元村の林檎園の娘）であった。啄木との会話は退職間際の2度だけである。啄木9月12日退職。

◎函館日々新聞社跡

宮崎郁雨の計らいで、教育意欲を失っていた啄木を函館日々新聞社の遊

軍記者にした。新聞の仕事に意欲を燃やし8月18日から入社し、新聞歌壇など起こすなど張り切っていたが、25日の大火により僅か一週間で全てを失った。しかし、以後の啄木は札幌、小樽、釧路、東京と新聞にかかわりを持って行くことになった。

◎「函館の床屋の弟子をおもひ出でぬ 耳剃らせるがこころよかりし」  
忘れがたき人々(一) 4首目。日記の9月11日に「吉野君と夕方谷地頭に散歩し、浮世床といふ床屋にて斬髪す」とある。当時、谷地頭町には一軒の小室理髪店よりなかった。ここは、節子の伯母に当たる一方井守蔵宅跡であるが、床屋は近くの旧勝田温泉に曲がる角にあった。節子の親類筋にあたる家が函館には有ったが、啄木は節子が訪れることを好まなかった。

◎「函館の臥牛の山の半腹の 碑の漢詩もなかば忘れぬ」  
19首目。明治34年に建立された碑である。時の貴族院議員だった宮本小一(鴨北)の漢詩文碑。「戦骨全収海勢移～」の七語絶句の漢詩である。しかし、啄木は脇にある「碧血碑」を歌ったものは1首もない。碧血碑は明治8年に建立されていた。

◎「むやむやと口の中にて たふとげの 事を呟く乞食もありき」  
20首目。6月10日、『紅苜蓿』に同人たちで「乞食と語る」と云う題で競筆することとなり、来函間もない啄木はこの新善光寺を訪れた。しかし乞食はおらず、糞尿汲取人だけいたと云う。ここで云う乞食は、山背泊の地蔵寺の「万平家」の万平であろう。また、「壹銭職供養碑」とは、理容組合が建立したもので、1861年文久元年の年号が入っている。徳川家康の「三方カ原戦い」の事故による。

◎「砂山の砂に腹這い初恋の いたみを遠くおもひ出づる日」  
「いたく錆びしピストル出でぬ砂山の 砂を指もて掘りてありしに」  
歌集「一握の砂」の冒頭に出てくる一連の砂山の砂の歌である。9首もあり、歌集の表題になっている。

## まとめ

- 啄木は、日給60銭、月給12円の生活で、一家5人を養いながら、苜蓿社の仲間との付き合いには妻節子は大変だった。入村質店にはよく顔をだしていたようだ。借金もしていた。
- 「函館の青柳町こそかなしけれ 友の恋歌矢ぐるまの花」  
青柳町を愛し、友をいたわる啄木である。「かなしけれ」をめでしけれ、いとしけとも感じられる。「死ぬ時は函館で死にたい」と云うことも解かる。
- 啄木が歌う「砂、砂山」は、どうだろう。
  - ①散歩は仲間と行く。特に岩崎白鯨とである。その白鯨が「啄木の歌にある海岸や砂原は、皆大森浜だ」と云っている。
  - ②啄木の生活行動範囲や仲間の職業内容からも、海辺は青柳町下の海岸であろう。
  - ③当時の町を見れば、現在松風町以東は人は住んで居ない。現東川町～大森町に掛けては、「ゴミ堤防」があり、詩情がわからない海岸と思う。
  - ④交通手段は、とことこ歩く「鉄道馬車」が現在の市電路線を歩いていた。銭を出してまでして啄木が乗っただろうか。
- 詩歌は詩情を、創造し、夢の世界、フィクションでいい。しかし、そこにモニュメントが出来たら、事実、ノンフィクションになる恐れが生まれる。特に時間が経過すればするほど真実性を持ってくる。こんなことに私は気をつけて行きたい。

## 付記

### ◎市立函館図書館

明治40年、岡田健蔵が鱸町の自宅に図書室を設けて、公開した私立図書館に始まる。翌年、函館区から公園内の協同館を借りて図書館の体系を整えた。昭和2年、一切を函館市に寄付し、昭和5年館長になった。いち早く啄木の価値を見出し、その資料を収集した。啄木日記(全著作



の1/4の量) 9年間13冊の内12冊が図書館にある。明治44年分は石川正雄が所有。ローマ字日記は42年の一部にある。その他、遺稿、歌稿、書翰、記録、遺品、手沢本など約400点と云う。

◎旧石川啄木一族之墓跡

啄木が明治45年4月13日、東京で没した。その後、房州、盛岡を経て、来函していた節子未亡人が啄木の遺骨と共に自分も函館にと願い、岡田健蔵が大正2年、母と長男の遺骨と一緒に持ち帰った。5月5日に節子も没したので、その49日に当たる6月22日に、墓碑を立て、この地に埋葬した。

◎啄木一族墓

大正15年建立。墓の形は宮崎郁雨の案で、サハリンに有った国境境界標を模した。歌文字は、啄木自筆のノートを拡大した。昭和6年、女婿石川正雄によって父、長女、次女が合葬された。父一禎、母かつ、娘京子、長男真一に啄木と節子の計7人。

◎出席報告

会 員 数	69名	出 席 率	函 館 北	10月2日	82.10%
出 席	42名		函 館 東	10月1日	92.78%
欠 席	27名		函 館	9月26日	92.05%
他クラブ出席	13名		函館五稜郭	9月27日	100.00%
出席合計	55名		函館亀田	9月30日	94.34%
除 外 者	2名				

次回・10月30日

「会 員 卓 話」

プログラム

小林 裕幸 会員



The Weekly Report of

Hakodate North R.C.

# 函館北ロータリークラブ会報

ルイス・ビセンテ・ジアイ 1996~97年度 国際ロータリー会長テーマ

## 築け未来を—行動力と先見の眼で。

### Build the future with action and vision



10月23日 卓話 伊藤 修氏

## 《第1607回例会》 第17号 10月30日(水)

### 本日のプログラム

#### 「会 員 卓 話」

小林 裕幸 会員

★会 長 西尾昌一 ★幹 事 佐々木公和

例会場：函館国際ホテル 〒040 函館市大手町5-10 TEL 23-5151  
例会日：毎週水曜日 12:30~13:30 事務所：函館市大手町5-10 ニチロビル3階 23-3870